

	令和5年度行政事業レビューシート					(文部科学省)		
事業名	スーパーグローバル大学創成支援事業			担当部局庁	高等教育局	作成責任者		
事業開始年度	平成26年度	事業終了 (予定)年度	令和5年度	担当課室	参事官(国際担当)	参事官(国際担当) 小林 洋介		
会計区分	一般会計							
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-			関係する 計画、通知等	「日本再興戦略」(平成25年6月14日閣議決定)、「第2期教育振興基本計画」(平成25年6月14日閣議決定)、「未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ」(令和5年4月27日教育未来創造会議第二次提言)			
政策	4 個性が輝く高等教育の振興			主要経費	教育振興助成費			
施策	4-1 大学などにおける教育研究の質の向上							
政策体系・評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20221215-mxt_kanseisk01-000026547-16.pdf							
事業の目的 (5行程度以内)	本事業では、我が国の大学の国際化を強力に推進し、大学の改革を促し、国際競争力を向上させるとともに優れた能力を持つ人材を育成する環境基盤を整備すること及び本事業の実践により得られた優れた成果や取組を国内外に対し戦略的に情報発信し、海外における我が国の高等教育に対する国際的な評価の向上と我が国大学全体としての国際化を推進することを目的としている。							
現状・課題 (5行程度以内)	教育未来創造会議の第二次提言(令和5年4月27日)における、コロナ禍で停滞したグローバルレベルでの人流が回復し、世界各国が国境を越えた人材確保を進めるとともに、高等教育の国際展開のオンライン化などのあらたな動きが生じており、人材の育成の場や人材そのものを広く世界に求める視点に立ち、留学生の派遣・受入れとその後の高度人材の獲得や大学の抜本的な国際化を更に進める必要があるとの提言も踏まえ、我が国の大学の更なる抜本的な国際化の推進と魅力とブランド力を磨く取組の推進・横展開を図っていく必要がある。また、地域・社会といったステークホルダーと連携しつつ大学がハブとなり地域の国際化を牽引し、我が国の成長を支え、グローバル社会で活躍する人材育成を図る大学の国際化の強化も必要となる。							
事業概要 (5行程度以内)	世界トップレベルの大学との交流・連携を実現、加速するための新たな取組や、人事・教務システムの改革などの体質改善、学生のグローバル対応力育成のための体制強化など、徹底した国際化に取り組む大学を重点支援。【定額補助】							
事業概要URL	https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/sekaitenkai/1360288.htm							
実施方法	補助							
補助率等	定額補助							
予算額・ 執行額 (単位:百万円) (インプット)			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求	
	予算の 状況	当初予算(A)	3,303	3,281	2,993.8	2,641.7	-	
		補正予算(B)	-	-	251	-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
		前年度から繰越し(C)	17	21	50	256	-	
		翌年度へ繰越し(D)	▲ 21	▲ 50	▲ 256	-		
		予備費等(E)	23	31	-	-		
	計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	3,322	3,283	3,038.8	2,897.7	-		
	執行額(G)		3,321	3,278	3,053			
	執行率(%) =(G)/(F)		100%	100%	100%			
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]		101%	100%	94%			
令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)			
	(項)		高等教育振興費		-			
		(目)	国際化拠点整備事業費補助金	2,641				-
			委員等旅費	0.2				-
			庁費	0.1				-
			諸謝金	0.1				-
			職員旅費	0.2				-
			その他	1				-
	計(A)		2,641.7	-				

活動内容① (アクティビティ)		徹底した大学改革と国際化を通じて、国際通用性ある教育プログラムの構築・実施、多様な国籍の教員による授業の実施、海外大学との連携協定等により、国際化を先導する取組に対する補助。									
↓											
活動目標及び活動実績① (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込	
		我が国の高等教育の国際通用性の向上	ガバナンス改革としての年俸制適用教職員・割合	活動実績	%	34.6	36.6	41	41	－	
				当初見込み	%	－	－	－	36.6	－	
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプットからのつながり)	外国人や海外で学位を取得した優秀な教員を獲得するためには、グローバルな採用方法とそれに対応した人事システムが重要となる。またそのような人材を核に、多くの授業が外国語で実施される環境を整えることにより、国際通用性ある教育の実施が可能になると考えられるため。									
成果目標及び成果実績①-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5 年度		
		教職員の多様化(「教員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員等の割合」を2023年度までに47.1%に引き上げる)に向けた教育改革	教員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員等の割合	成果実績	人	34.9	35.2	35.1			
				目標値	人	－	－	－	47.4		
				達成度	%	－	－	－			
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		採択大学に対するフォローアップ調査結果									
↓	成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカムからのつながり)	外国語のみで学位が取得できるコースが増加することにより、より多くの留学生が受け入れられる環境が整う。また日本人学生にとっては、より優秀な留学生との共修環境が大学内に生まれ国際通用性のある学習環境の整備に繋がるとともに、海外において高いレベルで学ぶために必要な外国語能力等を身につけた学生が育成される環境が整備されと考えられるため。									
成果目標及び成果実績①-2 (中期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5 年度		
		国際通用性ある教育プログラムの構築・実施	外国語のみで卒業(修了)できるコースの割合	成果実績	%	28.9	30.5	30.9	－		
				目標値	%	－	－	－	32.2		
				達成度	%	－	－	－	－		
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		採択大学に対するフォローアップ調査結果									
↓	成果目標①-3の 設定理由 (長期アウトカムへのつながり)	上記の①-1,2により、採択校の国際的なブランドの向上、キャンパスの国際化、人事・教務システムの整備、事務職員の高度化が進むことによる、外国人数員・留学生の受入れ環境が整備され、世界各国の学生から選ばれることが考えられるため。									
成果目標及び成果実績①-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 5 年度		
		更なる学生の流動化(「採択大学における外国人留学生比率」を令和5年度までに13%に引き上げる)	採択大学における外国人留学生比率	成果実績	%	12.1	12.8	－	－		
				目標値	%	－	－	－	18.1		
				達成度	%	－	－	－	－		
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		採択大学に対するフォローアップ調査結果									
アウトカム設定についての説明		アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由									
		－									
		アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由									
		－									

活動内容② (アクティビティ)		徹底した国際化、教育改革、研究力強化に繋がる教育力向上の取組を支える教務・ガバナンスの国際通用性あるシステム・体制の構築取組に対する補助。									
↓											
活動目標及び活動実績 ② (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込	
		国際通用性ある教育システム構築	「採択大学における授業科目ナンバリング」を令和5年度までに100%に引き上げる」	活動実績	%	98.3	98	97.8	－	－	
				当初見込み	%	－	－	－	100	－	
↓	成果目標②-1の 設定理由 (アウトプットからのつながり)	授業科目ナンバリングを推進することにより、シラバス英語化が国際通用性あるものとして進み、外国人教員・留学生及び、教育システム・体制を支える職員間における支援体制・環境が効率的に整うことに繋がると考えられるため。									
成果目標及び成果実績 ②-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5 年度		
		シラバスの英語化	「採択大学におけるシラバスの英語化」を令和5年度までに100%に引き上げる」る仕組み。	成果実績	%	57.7	59.4	67.7	－		
				目標値	%	－	－	－	70.9		
				達成度	%	－	－	－	－		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		採択大学に対するフォローアップ調査結果									
↓	成果目標②-2の 設定理由 (短期アウトカムからのつながり)	ナンバリングに続き、開講・履修に際しての基礎情報となるシラバスを英語化され、英語による授業やコースの設置がより進みやすくなる。これに伴い、外国人教員・留学生の支援業務の増加、海外協定大学締結・折衝等の必要性が高まり、それを支える職員能力の高度化が求めらると考えられるため。									
成果目標及び成果実績 ②-2 (中期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5 年度		
		国際通用性ある教育を支えられる職員の雇用・育成	外国語力基準を満たす専任職員数	成果実績	人	4,684	4,962	5,234	－		
				目標値	人	－	－	－	6,765		
				達成度	%	－	－	－	－		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		採択大学に対するフォローアップ調査結果									
↓	成果目標②-3の 設定理由 (長期アウトカムへのつながり)	各採択大学の取組評価を行う中間評価・事後評価においては、各大学の事業採択時に設定した達成目標の状況や、実施体制、具体的な取組、事業成果の普及等の状況を総合的に判断することから、事業全体が目標に到達していれば、A評価以上を取得でき、国際通用性ある受入体制・教育システム構築の実現システムの構築が達成されたと考えられるため。									
成果目標及び成果実績 ②-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 5 年度		
		国際通用性ある受入体制・教育システム構築の実現	中間評価・事後評価のA評価以上の件数	成果実績	件	33	－	－	－		
				目標値	件	－	－	－	37		
				達成度	%	－	－	－	－		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		「スーパーグローバル大学創成支援」中間評価・事後評価結果									
アウトカム設定について の説明		アクティビティ②について定性的なアウトカムを設定している理由									
		－									
		アクティビティ②についてアウトカムが複数設定できない理由									
		－									

活動内容③ (アクティビティ)		国際交流・研究ネットワークの構築・拡大による海外協定校等とのハイレベルな連携による国際通用性ある教育システムの構築									
↓											
活動目標及び活動実績 ③ (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込	
		海外協定大学との連携	大学間協定校数	活動実績	校	9,330	－	－	－	－	
				当初見込み	校	－	－	－	－	－	
↓	成果目標③-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	大学間協定の中でも、実質的な学生交流を継続的に行える大学連携の関係性を築くことが、ハイレベルな連携による国際通用性ある教育システムの構築に繋がるため。									
成果目標及び成果実績 ③-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5 年度		
		実質的な大学間交流	大学間協定に基づく交流数 (受入・派遣学生数)	成果実績	人	14,589	24,888	－	－		
				目標値	人	－	－	－	76,825		
				達成度	%	－	－	－	－		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		採択大学に対するフォローアップ調査結果									
↓	成果目標③-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)	大学間協定による実質的な連携の中でも、共同学位プログラムの構築は、よりハイレベルな連携による国際通用性ある教育システムであるため。									
成果目標及び成果実績 ③-2 (中期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5 年度		
		ハイレベルな連携による国際通用性 ある教育システムである共同学位プログラムの構築	ダブル・ディグリー数	成果実績	件	226	－	－	－		
				目標値	件	－	－	－	－		
				達成度	%	－	－	－	－		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		「大学における教育内容等の改革状況について」調査									
↓	成果目標③-3の 設定理由 (長期アウトカム へのつながり)	共同学位プログラムの中でも、ジョイント・ディグリーは、双方の極めて高い大学間連携により実現できるシステムであるため。									
成果目標及び成果実績 ③-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 5 年度		
		ハイレベルな連携による国際通用性 ある教育システムである共同学位プログラムの構築	ジョイント・ディグリー数	成果実績	件	17	19	20			
				目標値	件	－	－	－			
				達成度	%	－	－	－	－		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		「大学における教育内容等の改革状況について」調査									
アウトカム設定について の説明		アクティビティ③について定性的なアウトカムを設定している理由									
		－									
		アクティビティ③についてアウトカムが複数設定できない理由									
		－									

※令和4年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事項については現時点で予定やイメージを記入。

なお、金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。

文部科学省
3,044百万円

職員旅費等 0.5百万円を含む

本事業の選定委員会の審査・評価結果に基づき、採択大学を決定するとともに、これらの大学に対して補助金を交付する。

【補助金等交付】

スーパーグローバル
大学創成支援
A.大学(全37件)
3,027百万円

【補助金等交付】

B.(独)日本学術振興会
(1件)17百万円

海外の卓越した大学との連携や大学改革により徹底した国際化を進める。世界レベルの教育研究を行うトップ大学や国際化を牽引するグローバル大学の支援を行う。

本事業の選定委員会を設置し、本事業の選定に係る審査等の業務を実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位：百万円)

A.			B.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
その他	オンライ教育コンテンツ開発経費	173	人件費・謝金	常勤職員等人件費、プログラム委員会委員手当等	12.8
物品費	オンライ教育プラットフォーム調査経費等	48	その他	速記・テープ起こし外注費等	3.4
人件費・謝金	訪問調査旅費等	30	旅費	プログラム委員会出席旅費	0.2
			物品費	事務用消耗品	0.1
計		251	計		16.5

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

